

坂本棟梁に逢いに作業場へ行き、休憩時間になるまで宮下通(点滅信号近)からカメラを構えて作業の様子を見ていた。しばらくすると、棟梁は作業を中止し、こちらを見て手を振ってくれた。

棟「お～い！ ヘルメット持ってるか？」

私「はい！ 持ってますよ!!」

棟「したら、こっちへおいで～」

私は小走りで大門へ向かった。優しい笑顔の棟梁が現場を案内してくれた。間近で見る彫刻はとても迫力があり素敵だった。

棟「どこを直したかわかるか？」

私「…、わかりません…」

棟「そうだろう？ どこを直したのかわかったら駄目なんだ。一人でも“あれ？”って違和感を覚えたら俺の仕事は失敗なんだ。でも、あれだな…直したところを解ってほしい気もするな(笑)」

次回へ続く



ご門徒全員が一丸となって本堂等改修を目指していきたくと考えておりますので、いまだ記帳書の提出が滞っております方々には是非ともお願い申し上げます。

2012年7月1日作成

別院しらべ隊

調査報告書No.23 足跡を見ていこう

札幌の藻岩山には北海御廟があり、現如上人(東本願寺第二十二世・大谷光榮)のお骨が納められています。北海御廟は桃山式の三重塔で造られていて、その塔のまわりには、現如上人と共に開拓で貢献した人々のお墓があります。

この御廟塔については昭和9年の建立以来、80年近くの歴史を経て老朽化がひどく、また、東日本大震災もあり、健全性と安全性の確認が行われました。その結果、コンクリートの状態が非常に思わしくないと専門家からの指摘があり、今後の参拝者の安全を第一に優先させていただくということで、やむを得なく御廟塔を解体することになったようです。見た目では、まだまだ綺麗でとても危ない建物のように見えない感じであるにも関わらず、解体はさみしいばかりです。また、新たな建物に関しては、建てる予定ではあるようです。

なお、解体工事については、2012年8月万灯会后、3ヶ月間にわたり解体予定とのことです。

ぜひ解体される前に、参詣してください。



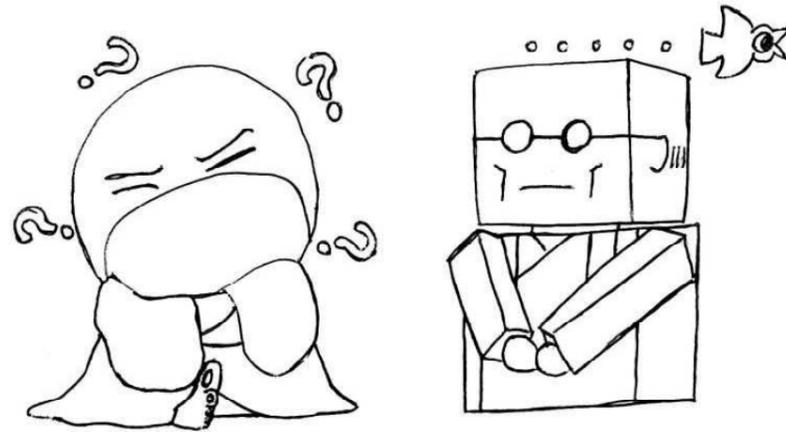
江戸末期～明治初期②

明治2年(1869年)6月5日

東本願寺は、北海道での新道切開・農民移植・教化普及の願書を提出。

9月6日

朝廷より許可が交付された。
北海道開拓を実行するにあたって一番の問題は必要経費をどのように捻出するのかであった。



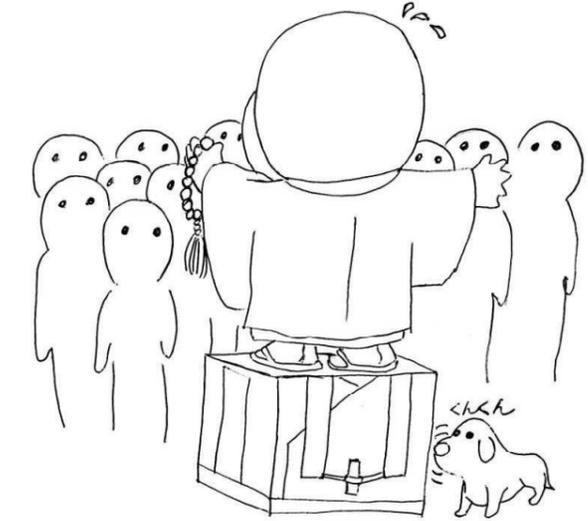
鳥羽伏見の戦いにおいて一晩で集めた金一千両の他に、門首以下総動員で各地を巡回し、金一万八千両と米約四千俵を献納している。慶応2年に仮堂を建ててはいるが、本格的な堂宇を建てなければならない状態であった。



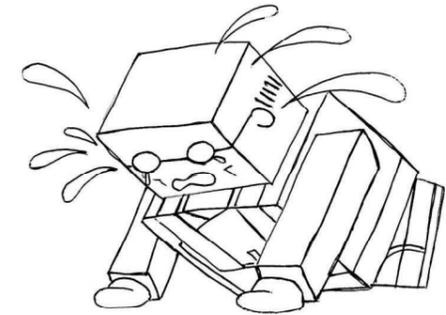
開拓の必

要経費は、

門徒に事情を訴え、大急ぎで寄付募集するより方法はない。北海道への道中、毎日毎日沿道の東本願寺末寺や門徒に、一日に何回でも趣旨説明と寄付依頼をしなければならない。現門首か次期門首のどちらかがまさに背水の陣を布く覚悟で体当たりしてもらうことが是非必要である。



厳如上人(東本願寺第二十一世)は老齢であったため、19歳の現如上人(東本願寺第二十二世)がこの難事の全責任者に決定した。



9月20日

先ず調査隊を編成し横浜港より渡道、函館に上陸し直ちに道路切開の調査を始めた。一行は道場創立の予定地も調査し、翌年2月に帰洛した。